

# 今日から始める 社会科授業

VOL.1  
文：神山安弘

どうする？ 単元づくり

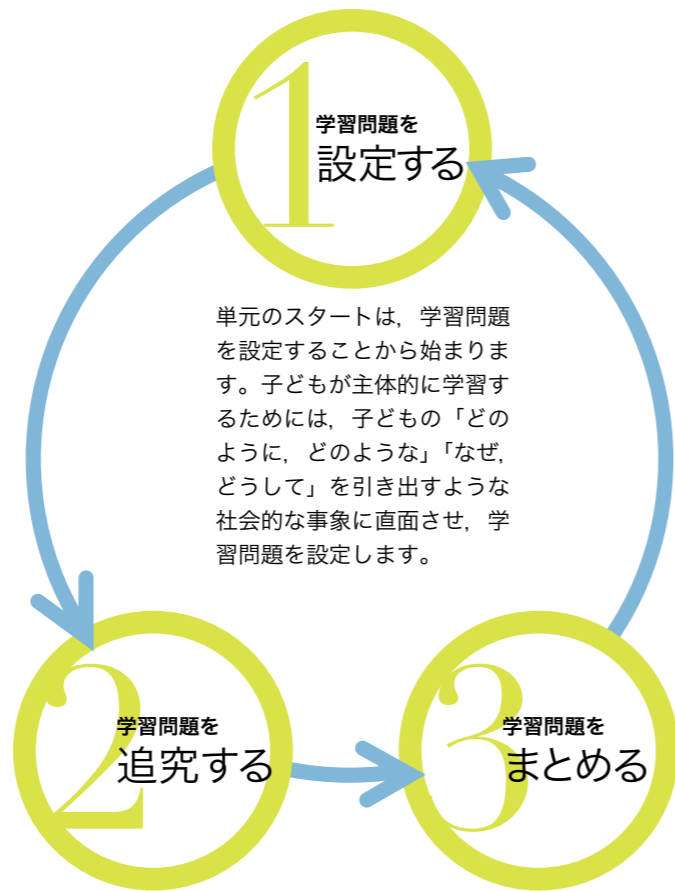
「1時間ごとの計画や準備はちゃんとやっているのに、子どもが夢中になるような授業にならない。」社会科に取り組む先生方から、そんな声が聞こえてくることがあります。そうした先生の話をよく聞いてみると、1時間1時間の授業に気を取られて、単元全体を見通した授業になっていないというケースが多々見受けられます。今日は、社会科にとって、授業の核といえる「単元の作り方」についてお話ししたいと思います。

## START

▶ 単元計画に見通しをもつ



問題解決的な学習の方法で単元の計画を立てるとき、まず全体の教材を概観し、授業の構成を考えます。いわば、どのように「スタート」して、どのような活動を組み合わせ、どのような「ゴール」を目指すのかを、ラフにデザインするのです。その上で学習過程に沿って、活動を具体的に位置づけてみます。次の3つの場面に分けて考えてみましょう。



単元のスタートは、学習問題を設定することから始まります。子どもが主体的に学習するためには、子どもの「どのように、どのような」「なぜ、どうして」を引き出すような社会的な事象に直面させ、学習問題を設定します。

学習問題を解決していくには、子どもが学習の見通しをもち、何を学ぶのが明らかになっていることが肝要です。学習問題に向かって、事実を一つ一つ追究し、調べる活動や話し合う活動などで明らかにしていくのです。

学習問題のまとめは、単元のスタートで立ち上がった問題を解決することにあります。まとめでは、調べた事実と事実を比較・関連・総合するなど、個人の学びにすることや、自分の考えを深めるなど学習を工夫することが大切です。

## 1 学習問題を設定する

### 学習問題は、どうつくればいい？

問題解決的な学習の展開は、子どもが「問題」をもつことからスタートします。学習問題は、学習活動のエネルギーとなるものです。同時に、子どもが自分で解決しよう意識できるもの、教師が設定した目標の達成につながるものでなくてはなりません。

## POINT1

▶ 学習問題をつくるには？

問題解決的な学習で設定される「問題」は、子どもが解決するための学習テーマで、「学習のめあて」にあたる内容です。学習問題を明確にするためには、次の3つの段階を準備します。

- ①子どもが事実に直面し、問題に気づき、疑問や意見をもつ段階。
- ②子どもの疑問や意見を交流し、集約したり方向づけたりする段階。
- ③クラスとして共通化を図り、学習問題をつくる段階。



## POINT2

▶ 学習問題を支える条件は？

学習問題は、単元のスタートからゴールまでを貫くものです。いわば、「串だんご」の串の役割の部分です。ですから、子どもが学習を進めるときのエネルギーになるような問題にするために、次の3点を大切にしましょう。

- ①子どもの興味・関心・やる気を引き出すもの。
- ②具体的な事実に基づいて生み出され、必要感・価値観が感じられるもの。
- ③子どもが予想を立てることができ、解決への見通しがもてるもの。

学習問題

1時間の学習課題

1時間の学習課題

1時間の学習課題

## POINT3

▶ 学習問題には、どんなタイプがある？

学習する単元によって、学習問題はいくつかのタイプに大別されます。学習問題の作り方は、学年の発達段階や年間の時期によって、教師が提示することもあれば、子どもがつくこともあります。クラスの実態に柔軟に対応するようにしましょう。学習問題には、主に5つのタイプがあります。

- 「発表しよう」「まとめよう」
- 「表現型」
- 「ひみつを探ろう」
- 「事実・把握型」
- 「どうしたらよいか」
- 「意思決定型」
- 「なぜ」「どうして」
- 「思考・判断型」
- 「どのくらい」「どのような」
- 「事実・把握型」

# 2 学習問題を追究する

## 調べる活動は、どのように進めたらいい？

学習問題を設定したら、次に予想や学習計画を立てます。「何を」「どのように」調べれば、学習問題が解決するのかを考えることが学習計画です。つまり、子どもが学習の内容や方法の見通しを明らかにしていくための活動です。学習を進めるなかで特に大切にしたいのは、資料と話し合いです。

### POINT1

#### ▶ 学習計画を立てるには？



学習計画を立てるときに大切なことは、子どもに対して学習問題を解決するという目的を明確にすることです。まず、子ども一人一人が根拠に基づく予想を立てます。次に、クラスで予想について話し合い、クラスとして調べたい「学びのかたまり」をつくります。学習計画は、「学びのかたまり」を学ぶ順序に整理することだと考えてください。学習計画を立てるときは、次の3つが大切です。

- ①問題解決に対する「見通し」をもつことができるもの。
- ②計画が具体的であり、活動のイメージがもてるもの。
- ③楽しい学習活動があり、活動意欲を高めるもの。

### POINT2

#### ▶ 資料は、どのように活用すればいい？



資料には教師が提示するものや、子どもが収集するものがあります。資料を有効に活用するためには、教師が資料から読み取らせたい内容を十分に吟味することが大切です。また、発達段階に応じて、資料活用の技能を育成していくことも求められます。学習指導要領の中学年には、次の3点が示されています。

- ①資料から必要な情報を読み取る。
- ②資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる。
- ③必要な資料を収集する。

### POINT3

#### ▶ 話し合い活動は、どう進めればいい？

話し合い活動を深めていくためには、前提となる3つの条件があります。まず、学級の間関係が安定していること。次に、話し合いの内容を吟味し、自分の意見をもって参加すること。そして、グループやクラスで話し合った成果を共有する学習方法の定着です。次のことがないように配慮しましょう。

- ①一部の子どもだけが発言し、ほかの子どもは聞くだけになっている。
- ②話し合いの方向が不明確で、学び合い高め合う話し合いになっていない。
- ③話し合いのルールや学習規律が定着せず、勝手な活動になっている。



# 3 学習問題をまとめる

## 単元のまとめは、どうすればいい？

単元のまとめの時間は、単元の目標やねらいの定着にかかわる重要なものです。また、教師にとっては、子どもの学習成果を評価する場面でもあります。ですから、子どもが自分の「学びの成果」を自覚し、この成果が「生きて働く力」になるように自覚させることが大切です。

### POINT1

#### ▶ 調べた事実を整理するには？

子どもたちは調べてきた学習の成果を、文章のほか、関係図、新聞、図表などに整理します。この活動を通して、情報を整理する能力や表現する能力を育てることができます。整理する活動で大切にしたいのは、次の3点です。

- ①調べ学習で習得した知識を、資料を活用しながら振り返る。
- ②知識を整理し、時間的な変化や空間的な広がりなどを関係図にまとめる。
- ③単元の学習を整理・統合し、全体の様子を概観させる。



### POINT2

#### ▶ 学びの成果を共有化するには？

学級全体で単元の目標やねらいを定着させるには、整理・統合した学習成果を共有化することが大切です。子どもが自分の言葉で学びの成果を表現したり、話し合いをしたりすることで、多面的・多角的な考えに気づき、目標やねらいに迫る学びができます。学びの共有化のために大切なことは、次の3点です。

- ①子ども一人一人が、自分の問題として学習が解決している。
- ②グループやクラス全体の話し合いで、問題の広がりや深まりがある。
- ③自分の学びに、クラスの学びの成果を生かすことができる。



### POINT3

#### ▶ まとめから自分の考えを深めるためには？

学年の発達段階を踏まえた上で、単元の終末に学んだことを生かし、よりよい未来の発展を考えたり、学習した内容をほかの例で考えてみたりすることが大切です。これからの社会科の授業に求められているのは、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎」を育むことです。このような学習の場では、次の3点に配慮して授業を進めましょう。

- ①問いに対する正解は、必ずしも一つではない。
- ②社会的な実践力を高めることは大切だが、けっして無理はしない。
- ③子どもと教師が、ともにこれからの社会を考える学習にする。

